

「のん太の家庭科室」 2025 年度活動報告

教育学部 人間生活系コース「のん太の家庭科室プロジェクト」

2021 年度からスタートした「のん太の家庭科室」は、2021 年度はのべ 141 名、2022 年度はのべ 243 名、2023 年度はのべ 174 名、2024 年度はのべ 141 名の市民の皆様にお越しいただき、学生たちとともに、幅広い年代の地域の人々が、ものづくりの楽しさを体験する学びの場として定着しつつあります。

2025 年度は、4 年生が主となり、卒業研究として、「リメイクを通してウェルビーイングを考える」をテーマに、広島大学 B606 被服実習室（6 月、9 月）、道の駅西条のん太の酒蔵（10 月、11 月）において、計 4 回講座を開催しました。のべ 121 名の参加がありました。

【写真で振り返る 2025 年度講座】

4 年生が初めて主催した広島大学 B606 被服実習室（6 月）では、「ゆかた祭りの飾りを作ろう」をテーマに、午前に刺し子、午後にファブリックフラワーの講座を行いました。夏らしい「花火」や「ゆかた」のモチーフを取り入れました。お持ちいただいた布を用いてファブリックフラワーを行った受講者もいました。



第2回講座の広島大学 B606 被服実習室（9月）では、「芸術の秋を楽しんで作ろう」をテーマに、午前にはダーニング、午後にはファブリックフラワーの講座を行いました。ダーニングでは、持参した衣類や布に刺繍を施し、思い出の品をよみがえらせる様子が印象的でした。



第3回講座の道の駅西条のん太の酒蔵（10月）では、「みんなで布を持ち寄って作ろう」をテーマに、午前にはクロスステッチ、午後にはロゼット風ファブリックフラワーの講座を行いました。2022年7月にオープンした「道の駅西条のん太の酒蔵」での開催も今年で4年目となります。午後には、外国人の留学生も参加し、受講者同士が楽しく交流している姿が見られました。



今年度最後の道の駅西条のん太の酒蔵（11月）では、「クリスマスリースを作ろう」をテーマに、午前は刺し子、午後はファブリックフラワーの講座を行いました。4回の講座の集大成として、作った作品をクリスマスリースに縫い付けて、未就学児から高齢者まで楽しんで製作を行いました。



今年最後の講座を終えたスタッフはたくさんの学びを得て、達成感から笑顔が見られました。



2025年度講座を主催した学生の声です。

【4年生（工藤実樹，諸留未来）】

本年度も「のん太の家庭科室」の活動を応援していただき、ありがとうございました。本講座では、参加者の方々が家族や地域の人との交流を通して、ものづくりの楽しさや喜びを体感することができました。講座後には、「同じ年頃以外の人と交流することが少ないので、また参加させて頂きたいです。」「家では時間をとって子どもと手芸をすることがないので、とても楽しく良い機会になりました。大学生の方や先生がとても丁寧に寄り添って子どものレベルに合わせてくださったので無理なく楽しい時間となりました。」「捨てるに捨てられない品があり、早速家で実践しようと思っています。」などの声をいただき、講座によって子どもたちの成長を実感する機会となり、地域の方々にも、本講座が喜んでいただけるものになったことを嬉しく思います。

本講座は、ものづくりの技術や知識を身につけるだけでなく、子どもたちの自己肯定感やコミュニケーション能力の向上にもつながっていると感じています。製作や交流を通して、学んだことを生活に活かす生活実践力が高まり、主体的に豊かな生活を創造する力を身につけることができます。また、リメイクに取り組むことで、衣服を長く使う意識をもち、日常の衣生活をより主体的に行い、環境に配慮した持続可能な衣生活を目指すことができます。さらに今年度は「ウェルビーイング」に焦点を当て、題材の選定、講義を行ったことにより、環境についても考えるきっかけになりました。

これからも、子どもたちが家庭科を楽しみながら、豊かな生活（ウェルビーイング）を送ることができるよう、本講座の活動に貢献していきたいと思います。来年度以降も、「のん太の家庭科室」を引き続きよろしく願いいたします。